

秋山郷のメグスリノキ

尾崎富衛

県内各地で自然開発が進んでゆく中で、津南町はなお豊かな自然が町内各地に残されている。巨樹・巨木林も数多くあり、種類も豊富である。これらの中には地元のごく一部にしか知られていないような種類、個体も現存するらしく、懐の深さをうかがわせる。

今回地元の滝沢茂政氏の情報により現地調査したメグスリノキは、既に調査済みの字穴藤にある町の天然記念物の個体と、前倉の南山中にある個体に匹敵するほどの立派なものである。

秋山郷の中程、国道から別れて結東の集落の北端にある十二社のわきの農道を上ってゆくと、段丘上に水田が開ける。道はその間を縫うようにして更に奥の雑木林に入る。林内は急な斜面となっており、メグスリノキはその斜面の中程に下の清水川原の集落を見下ろすように聳立っている。現場は北東向きの急斜面で、主幹は同じ側へ約20度傾斜し、根元は釣り針状に曲がって立ち上がる。また根元から約4mで南北二大支幹に分岐し、相互に接して斜上する。枝は全体に東側に偏る。樹勢旺盛、枝折れや腐れこみが殆どない。今回の調査結果は次の通りである。

位置・海拔	穴藤 (町天・640m) ()は現地表示	結東前倉橋上830m?	結東山林中750m? 新巨樹 (今回調査のもの)
調査日	93. 11. 4	93. 10. 10 (95. 6. 26一部補正)	94. 11. 8
根回りcm	325 (300)	360	330
目通り幹囲	255 (240)	268	252
推定樹高m	22.00		28.00 20.00
推定樹令年	300 ? (310)	300-400	300-400
主幹の傾斜	北へ約30度	北東へ約20度	北東へ約20度
斜面の方位	北北東	北東	北東
枝張りm	西北西へ8.65 東南東へ4.50 その他測定困難	北西へ2.70 南東へ10.00 南西へ8.70 北東へ8.40	東西12.00 南北15.00 その他測定困難
雌雄	雌株	雄株?	雌株
現地の状況	穴藤集落から約250m 上の斜面に突出	国道から約150m上 の杉林の中の斜面	結東集落の北西の 山林中の斜面に突出

11月8日現在全体の約70%が紅葉して残り、他の葉は既に落葉していた。この年は枝に殆ど果実が着生しておらず、また付近の地上にも見られなかった。土地の人の言によれば前年はかなり結実が見られたということから、この個体は雌株であることがわかる。

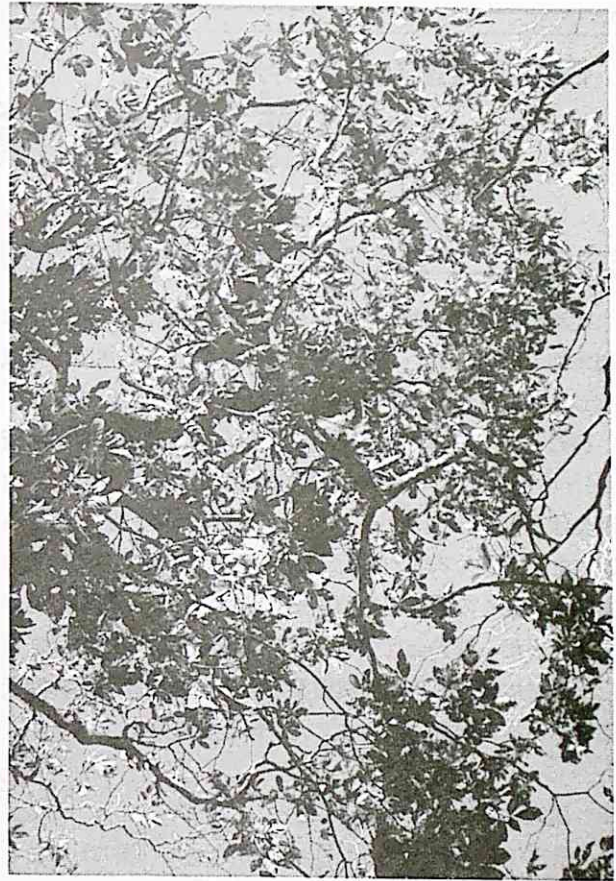
メグスリノキはカエデ類の中でも特異な形態をもち、秋の末には見事に紅葉し、山中でも非常に目につく。この種は日本固有で、主に東日本の太平洋側に多く、日本海側と近畿以西には少ない。長野、群馬、福島など新潟県に隣接する県の山間部に多いが、巨木の記録はない。県内でも分布が極めて限られている中でこの津南町にこのような大木が現存することは驚くべきことである。今後ともこれらの貴重な巨木を保護し、後世に伝えるよう願って止まない。

参考文献

- 尾崎富衛(1994)津南町の自然 植物編 P43-522, 津南町教育委員会
牧野和春(1990)巨木名木巡り(甲信越・中部編) 牧野出版kk



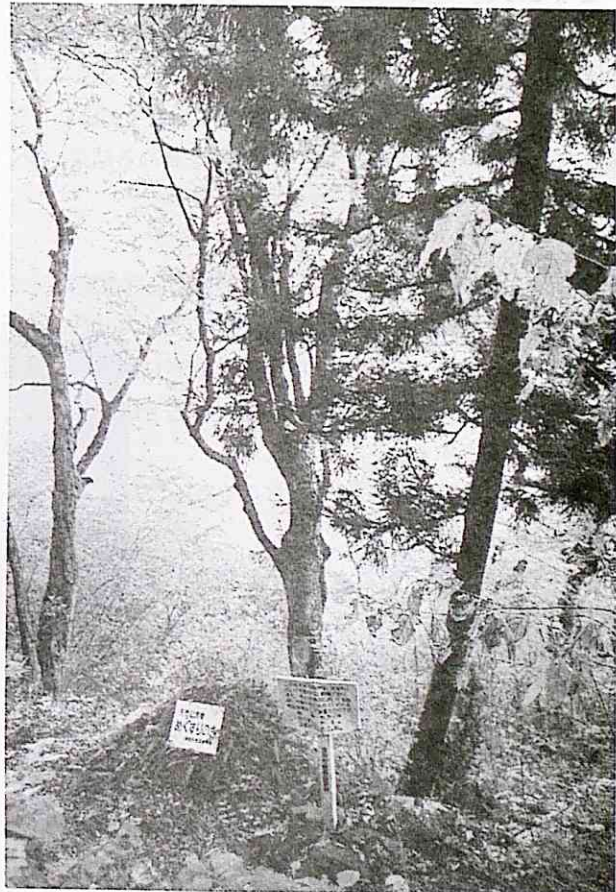
【写真1-a】 結東山中メグスリノキ 新巨樹('94. 11. 8)



【写真1-b】 結東山中メグスリノキ
新巨樹の枝葉('94. 11. 8)



【写真2】 穴藤の町天然記念物の巨樹('93. 11. 4)



【写真3】 結東前倉橋上の巨樹('93. 10. 19)